

平成24年産米取引の状況について

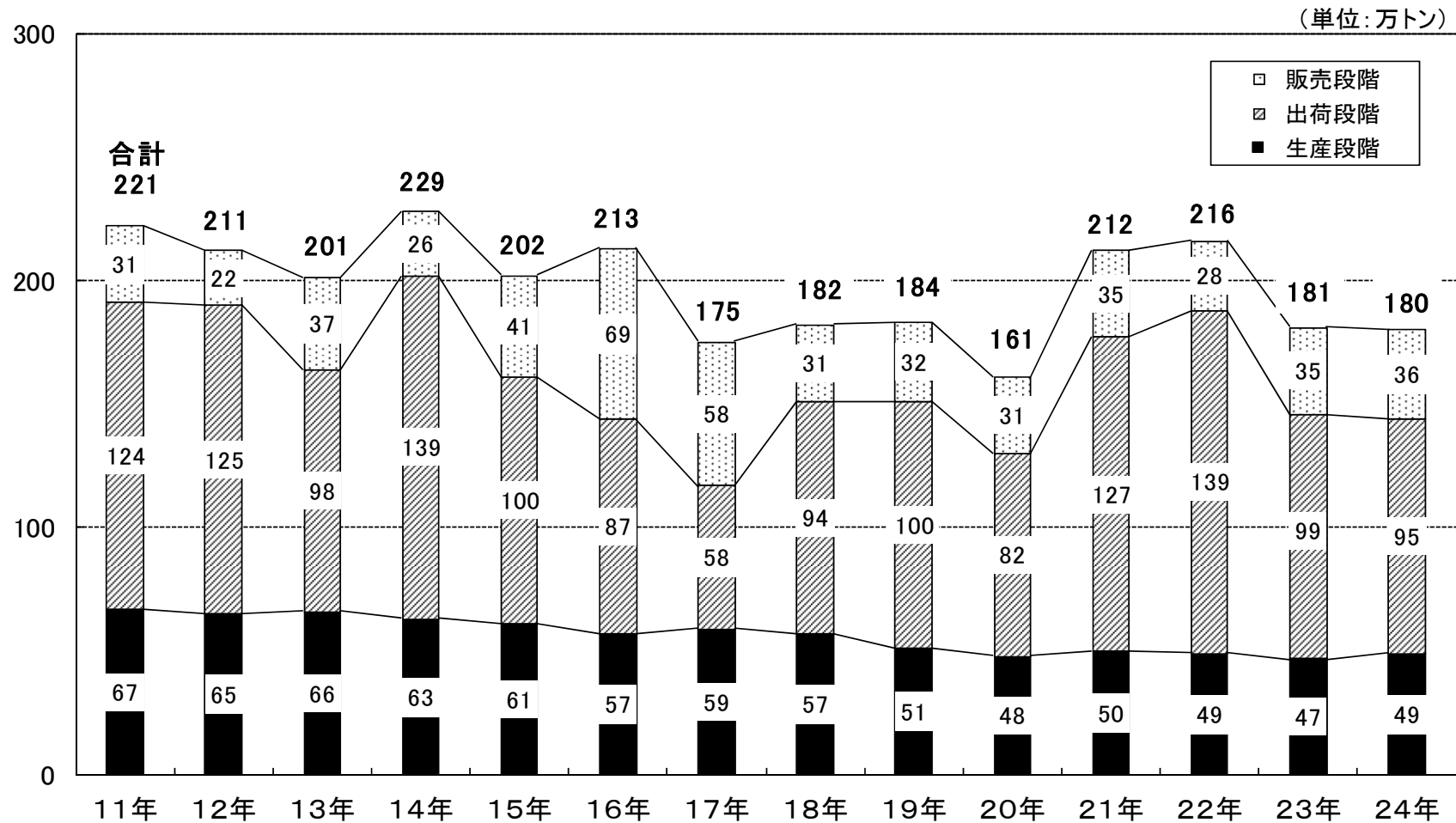
平成25年2月

農林水産省

目 次

1	民間流通における6月末在庫の推移	1
2	政府備蓄米の6月末在庫の推移	2
3	政府備蓄米の在庫の状況	3
4	平成23/24年及び24/25年の米の需給見通し	4
5	25年産米の政府備蓄米の買入について	5
6	平成24年産水稻うるち玄米の1等比率	6
7	平成24年度のSBS米の輸入入札状況	7
8	米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移(平成18年産～24年産)	8
9	産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成24年産)	9
10	平成24年産米の相対取引価格(平成24年12月分)	10
11	産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成23年産)	11
12	米の流通の状況(16～22年産米)	12
13	家庭における米購入量等の推移	13
14	23年産及び24年産米の流通状況について	16
	(参考1) 東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄の検討	17
	(参考2) 平成24年産加工用米の供給不足分に対する備蓄米の販売について	18
	(参考3) 米の先物取引の試験上場の動向	19

1 民間流通における6月末在庫の推移



資料: 農林水産省調べ

注: 1)うるち玄米及びもち玄米の値である。

2) 各年の民間在庫量において、

① 平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

② 平成15年については、

・販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量である。

・出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③ 平成14年以前については推計値であり、

・販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

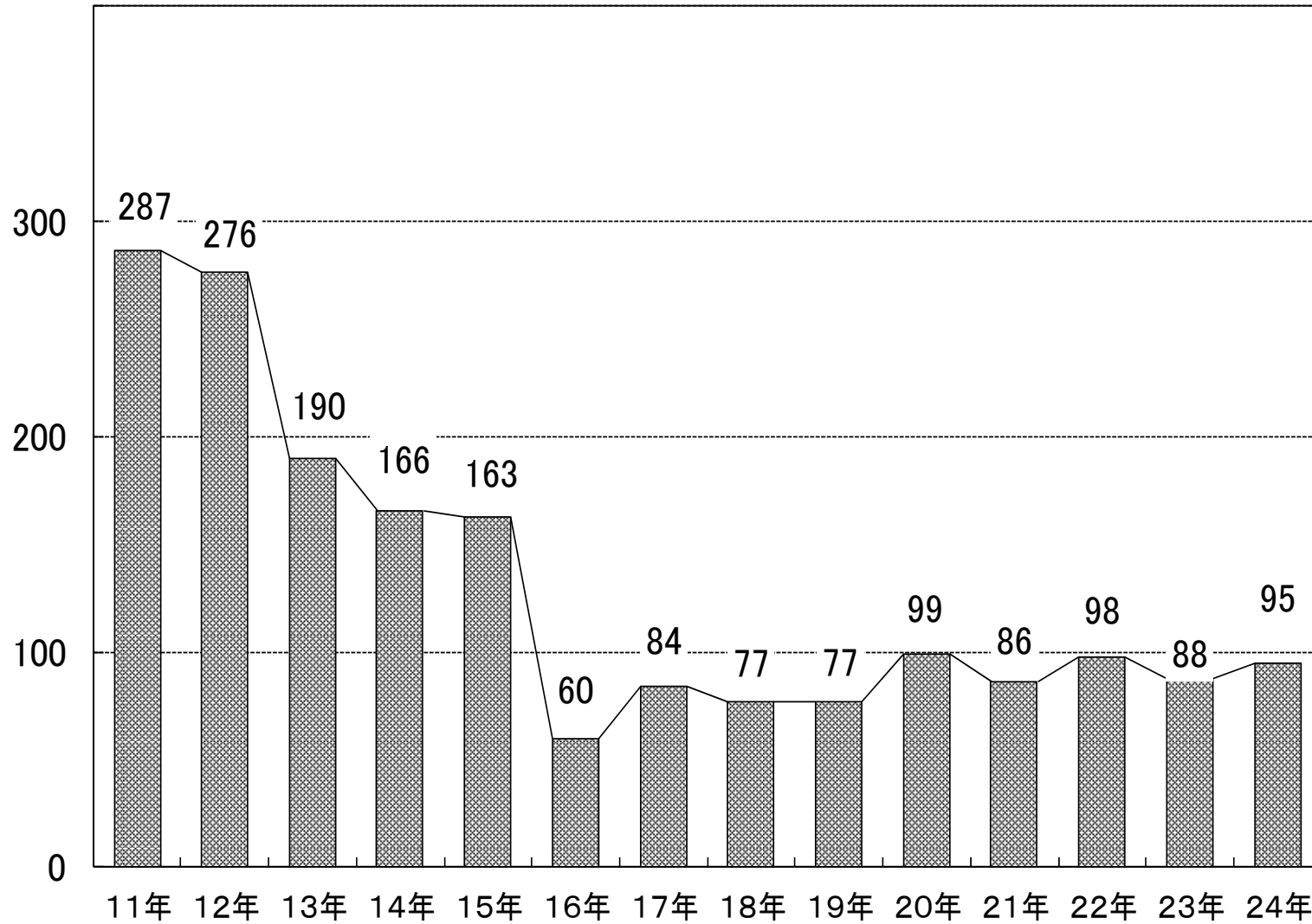
・出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」(平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」)を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

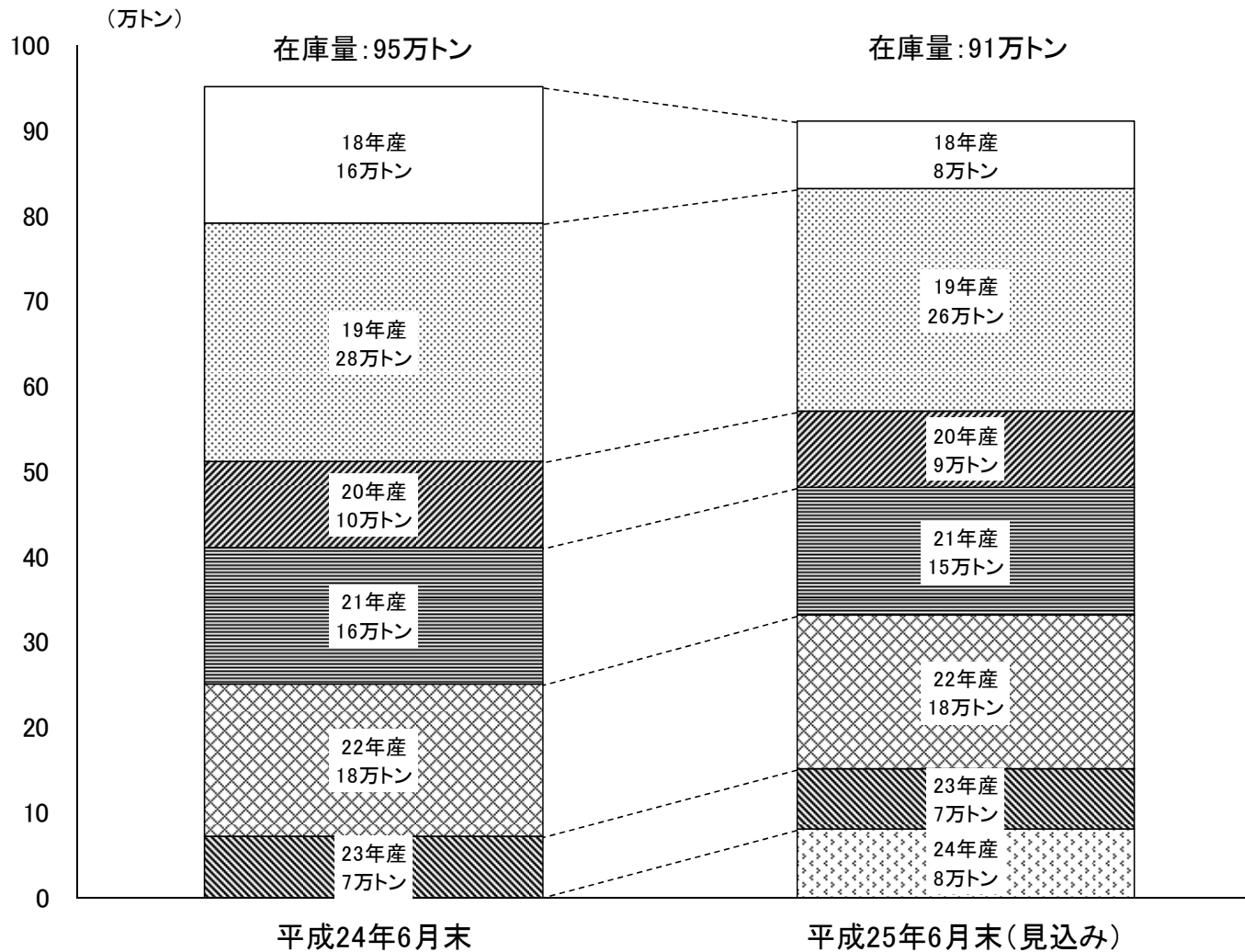
3) ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 政府備蓄米の6月末在庫の推移

(単位:万トン)



3 政府備蓄米の在庫の状況



資料：農林水産省調べ

注：1) うるち玄米の数量である。

2) 平成24年6月末以降、平成23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給4万トン(平成19年産2万トン、平成20年産1万トン、平成21年産1万トン)について、平成24年8月末までに供給済となっているほか、平成18年産について、8万トンの範囲内で非主食用に販売。

3) 平成24年産については、8万トンの契約が進んでおり、平成25年3月末までに全量が政府へ引き渡される予定。

4) ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

4 平成23/24年及び24/25年の米の需給見通し

<23/24年の需給見通し>

【23年7月指針】

	主食用米等	
23年6月末在庫量	A	182
23年産米生産数量目標	B	795
原発事故による作付制限	C	▲ 5
地震・津波被害による生産量減少	D	▲ 9
県内市町村間調整・県間調整による生産量増加	E	12
平成23年産主食用米等生産量	F=B+C+D+E	793
供給量 計	G=A+F	975
需要量	H	805
24年産6月末民間在庫	I=G-H	170

【23/24年の備蓄運営】

	備蓄運営	
23年6月末備蓄量	A	88
23年産米買入数量	B	※ 20
平成23/24年非主食用販売量	C	※ 20
24年6月末備蓄量	D=A+B-C	88

注：※は仮置きした数量である。

【23年11月指針】

	主食用米等	
23年6月末在庫量	A	181
23年産主食用米等生産量	B	813
平成23/24年主食用米等供給量計	C=A+B	994
平成23/24年主食用米等需要量	D	805
平成24年6月末民間在庫量	E=C-D	189

(単位: 万トン)

【23/24年の備蓄運営】

	備蓄運営	
平成23年6月末備蓄量	A	88
平成23年産米買入数量	B	※ 7
平成23/24年飼料用・援助用等販売量	C	※ 4
24年6月末備蓄量	D=A+B-C	91

注：※は予定数量である。

<24/25年の需給見通し>

【24年7月指針】

	主食用米等	
平成24年6月末在庫量	A	182
平成24年産米生産数量目標	B	793
平成24/25年備蓄米代替供給量	C	4
平成24/25年主食用米等供給量計	D=A+B+C	979
平成24/25年主食用米等需要量	E	798
平成25年6月末民間在庫量	F=D-E	181

【24/25年の備蓄運営】

	備蓄運営	
平成24年6月末備蓄量	A	95
平成24年産米買入契約数量	B	8
平成24/25年備蓄米代替供給量	C	4
平成24/25年飼料用・援助用等販売量	D	※ 8
平成25年6月末備蓄量	E=A+B-C-D	91

注：※は仮置きした数量である。

【24年11月指針】

	主食用米等	
平成24年6月末在庫量	A	180
平成24年産主食用米等生産量	B	821 (注1)
平成24/25年備蓄米代替供給量	C	4 (注2)
平成24/25年主食用米等供給量計	D=A+B+C	1,005
平成24/25年主食用米等需要量	E	799
平成25年6月末民間在庫量	F=D-E	206

【24/25年の備蓄運営】

	備蓄運営	
平成24年6月末備蓄量	A	95
平成24年産米買入数量	B	8
平成24/25年備蓄米代替供給量	C	4
平成24/25年非主食用販売量	D	8
平成25年6月末備蓄量	E=A+B-C-D	91

注：平成24/25年備蓄米代替供給量は、①東日本大震災により、倉庫に保管されていた平成22年産米が被災し、これを平成23年産米で埋め合わせる形で供給が行われたこと、②特別隔離対策(100 Bq/kgを超える平成23年産米の特別隔離対策)の対象となる米が市場隔離されること、から供給量が減少したことに伴い、①及び②に見合う量4万トン(震災による倉庫被災分2万トン程度+特別隔離対策による隔離数量2万トン程度)の代替供給を政府備蓄米から行う数量である。

注1：平成24年産主食用米等生産量は、821万トンと見通しているが、平成24年産米について高温障害による精米歩留り減が発生しているため、平成24/25年主食用米等供給量計は、1,005万トンから数万トン程度減少となることも想定される。このため、平成25年6月末民間在庫量は、206万トンを下回る可能性がある。

注2：平成24/25年備蓄米代替供給量は、①東日本大震災により、倉庫に保管されていた平成22年産米が被災し、これを平成23年産米で埋め合わせる形で供給が行われたこと、②特別隔離対策(100 Bq/kgを超える平成23年産米の特別隔離対策)の対象となる米が市場隔離されること、から供給量が減少したことに伴い、①及び②に見合う量4万トン(震災による倉庫被災分2万トン程度+特別隔離対策による隔離数量2万トン程度)の代替供給を政府備蓄米から行った数量である。

5 25年産米の政府備蓄米の買入について

【25年産米の政府備蓄米買入に係る見直しの概要】

買入予定数量を県別優先枠として配分

- ① 買入予定数量（20万トン）については、これまでの備蓄米の売渡実績に加え、道府県からの希望聴取を通じ、「県別優先枠」として配分。
- ② 優先枠の配分を受けた道府県は、その枠内で他の道府県と競争することなく、入札に参加可能。
- ③ 26年産以降についても、前年産の売渡実績をベースに「県別優先枠」を設定。
- ④ 備蓄米の買入価格は、主食用米と遜色ない水準であることを周知。（24年産米の加重平均落札価格は、13,406円/60kg）

入札手続等の改善方向

- ① 出荷数量について、豊作時における作況調整を任意とする。
- ② 国に引き渡す銘柄の報告期限の延長（「買入契約時」から「6月30日」までに）。銘柄変更の許容（政府引渡し時まで）。
- ③ 売渡申込数量の下限の引下げ（50トン以上から10トン以上に）。
- ④ 取組生産者の報告期限の延長（6月30日から8月31日に）。

産地資金の拡充

23年度の優先枠の数量を超えて備蓄米の落札を行った都道府県に対して、拡大に応じて1.5万円/10a相当の産地資金を追加で配分。

【25年産政府備蓄米の買入入札の結果】

〔第1回 平成25年1月29日実施〕 単位:トン

買入対象米穀の産地	提示数量	入札数量	落札数量
合計	250,000	75,977	1,697
指定なし	3,820	337	0
北海道	21,000	0	0
青森	21,000	4,527	102
岩手	10,000	7,218	162
宮城	10,000	162	0
秋田	30,000	14,420	0
山形	12,500	280	270
福島	40,000	432	152
茨城	3,000	34	0
栃木	14,730	1,830	0
埼玉	600	520	0
千葉	5,000	506	0
新潟	31,000	29,185	714
富山	13,000	12,501	0
石川	4,000	1,000	0
福井	1,300	500	0
長野	2,000	342	0
岐阜	1,500	15	0
静岡	1,200	0	0
愛知	2,000	480	0
三重	860	48	48
滋賀	3,000	0	0
京都	400	0	0
兵庫	1,200	110	0
奈良	530	0	0
鳥取	1,320	0	0
島根	250	0	0
岡山	3,100	855	249
広島	1,560	120	0
山口	3,000	0	0
徳島	2,000	315	0
香川	500	240	0
愛媛	1,000	0	0
高知	110	0	0
福岡	1,300	0	0
佐賀	900	0	0
長崎	80	0	0
熊本	1,000	0	0
大分	240	0	0
道府県別枠	246,180	75,640	1,697

※第2回は平成25年2月12日に実施予定

6 平成24年産水稻うるち玄米の1等比率

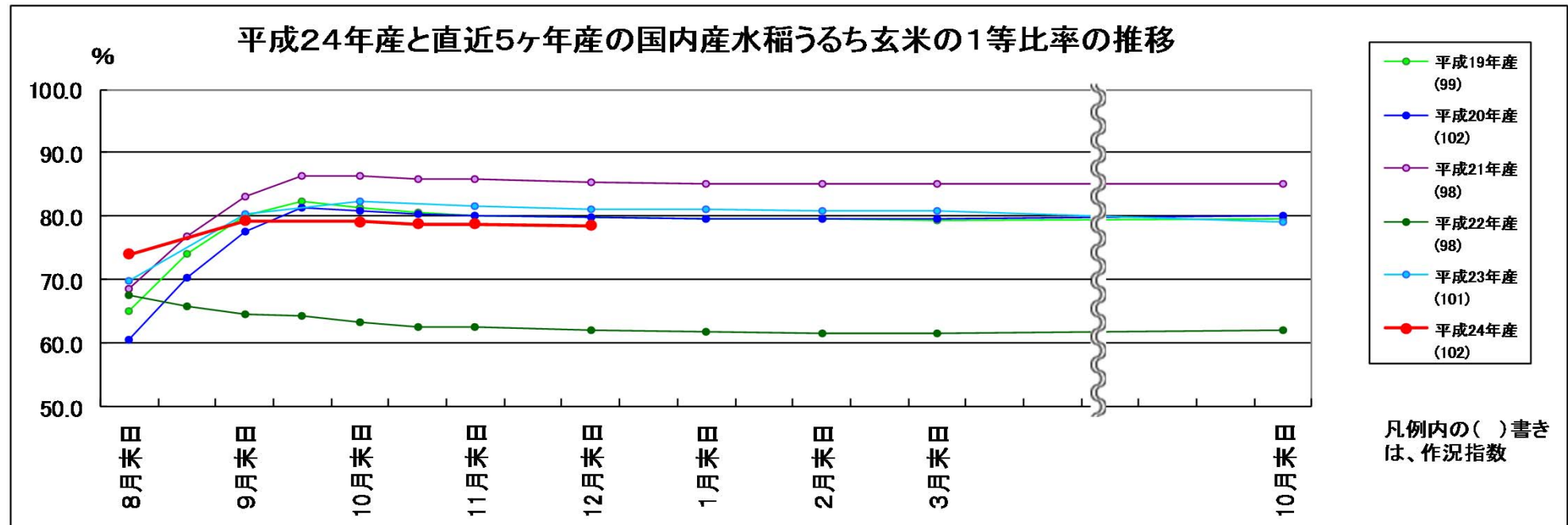
	平成24年産	平成23年産	22年産	21年産	20年産	19年産
8月末日	74.0	69.6	67.5	68.4	60.5	65.1
9月末日	79.2	80.3	64.4	83.0	77.5	80.0
10月末日	79.1	82.3	63.1	86.4	80.8	81.2
11月末日	78.7	81.5	62.4	85.7	80.2	80.2
12月末日	78.5	81.2	61.9	85.4	79.9	79.8
1月末日		80.9	61.7	85.2	79.7	79.7
2月末日		80.8	61.6	85.1	79.6	79.5
3月末日		80.6	61.4	85.0	79.5	79.4
最終	-	80.8	62.0	85.1	80.0	79.6

資料：農林水産省とりまとめ。

注1:「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合。

注2:「最終」は、翌年10月末現在。

注3:1等比率については、4月以降変動が軽微なため、平成23年産より、翌年4月末～翌年9月末の間、公表しないこととした。



7 平成24年度のSBS輸入入札状況

- 平成24年度のSBS米の輸入については年間10万トンを予定。
- 第1回入札が9月25日、第2回入札が11月6日、第3回入札が12月18日に行われ、昨年よりも高い価格水準で全量落札。
- これは、国産米価格が高い水準で推移している中で、業務用などに適した値ごろ感のある国産米の手当てが難しい状況を反映していると見られているところ。

■ 第1回入札(平成24年9月25日実施)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| (1) 契約予定数量 (一般米) | 22,500トン |
| (2) 申込数量 (一般米) | 80,518トン
[応札倍率3.6倍] |
| (3) 落札数量 (一般米) | 22,500トン |
| (内訳) | |
| 中国産 | 12,056トン |
| 米国産 | 6,280トン |
| 豪州産 | 4,124トン |
| タイ産 | 40トン |
| (4) 落札価格 (一般米) | |
| 平均売渡価格 (税抜き) | 277千円/トン |
| 平均買入価格 (税抜き) | 154千円/トン |
| (5) このほか、砕精米(加工用) | 2,500トン
を落札。 |

■ 第2回入札(平成24年11月6日実施)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| (1) 契約予定数量 (一般米) | 22,500トン |
| (2) 申込数量 (一般米) | 79,552トン
[応札倍率3.5倍] |
| (3) 落札数量 (一般米) | 22,500トン |
| (内訳) | |
| 豪州産 | 10,174トン |
| 米国産 | 9,526トン |
| 中国産 | 2,800トン |
| (4) 落札価格 (一般米) | |
| 平均売渡価格 (税抜き) | 278千円/トン |
| 平均買入価格 (税抜き) | 138千円/トン |
| (5) このほか、砕精米(加工用) | 2,500トン
を落札。 |

■ 第3回入札(平成24年12月18日実施)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| (1) 契約予定数量 (一般米) | 22,500トン |
| (2) 申込数量 (一般米) | 76,025トン
[応札倍率3.4倍] |
| (3) 落札数量 (一般米) | 22,500トン |
| (内訳) | |
| 中国産 | 11,824トン |
| 米国産 | 7,088トン |
| 豪州産 | 2,147トン |
| (4) 落札価格 (一般米) | |
| 平均売渡価格 (税抜き) | 299千円/トン |
| 平均買入価格 (税抜き) | 144千円/トン |
| (5) このほか、砕精米(加工用) | 2,500トン
を落札。 |

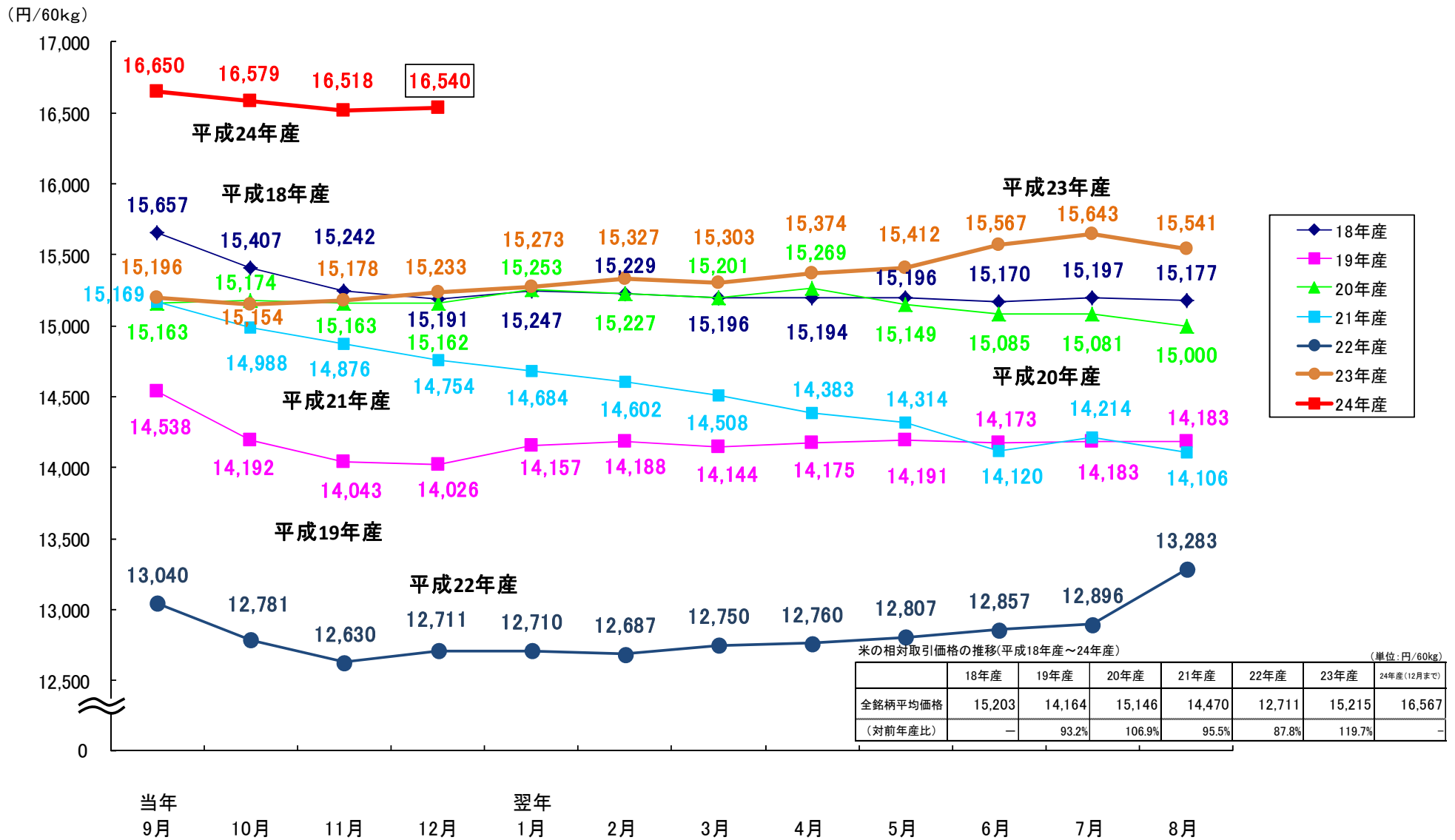
(参考)米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(抜粋) (平成24年7月31日決定)

第4 米穀の輸入数量及びその種類別の数量に関する事項

2 平成24会計年度の輸入方針

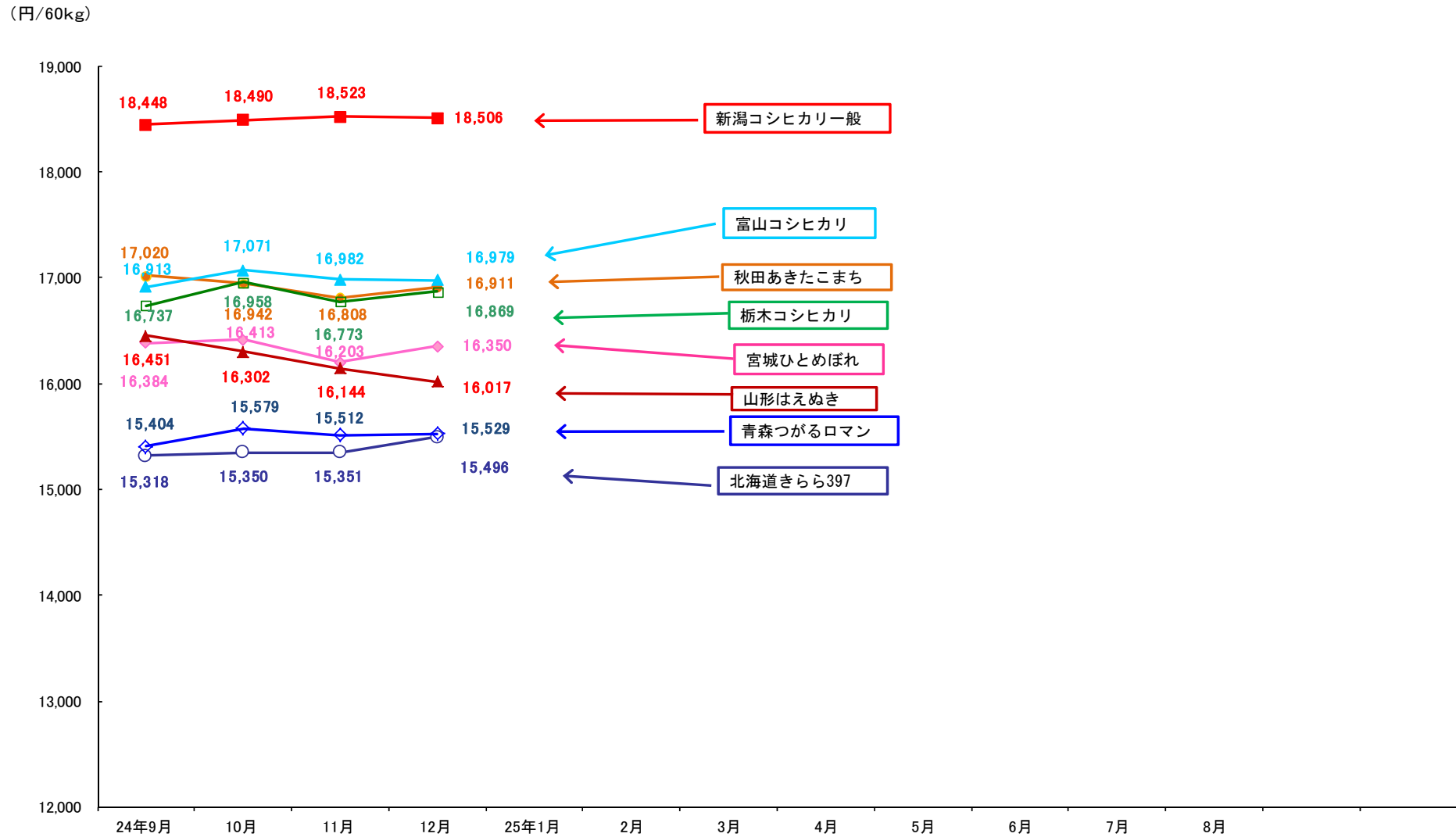
平成24会計年度の輸入予定数量については、WTO農業交渉において新たな合意ができるまではミニマム・アクセス数量は平成12年度の水準が維持されることから、年間77万玄米トンとします。
SBS方式による輸入については、予定数量を年間10万トンとします。

8 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移（平成18年産～24年産）



資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 注1: 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。
 2: 産地銘柄ごとの価格を前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。
 3: 全銘柄平均価格は、当年産の7月から翌年10月までの数量を累計し算出した価格である。

9 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成24年産)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 (注意) 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

10 平成24年産米の相対取引価格(平成24年12月分)

平成24年産米の相対取引価格(出荷業者)(速報)
(平成24年12月)

(単位:円/玄米60kg)

産地	品種銘柄	24年12月 ①	参考			
			24年11月 ②	対前月比 ①/②	23年12月 ③	対前年比 ①/③
北海道	きらら397	15,496	15,351	101%	14,146	110%
北海道	ななつぼし	15,444	15,414	100%	14,039	110%
北海道	ほしのゆめ	15,578	-	-	-	-
青森	つがるロマン	15,529	15,512	100%	13,711	113%
青森	まっしぐら	15,336	15,152	101%	13,323	115%
岩手	ひとめぼれ	16,074	15,926	101%	14,284	113%
岩手	あきたこまち	16,023	15,947	100%	14,425	111%
岩手	いわてっこ	15,296	15,282	100%	-	-
宮城	ひとめぼれ	16,350	16,203	101%	14,496	113%
宮城	ササニシキ	16,690	16,717	100%	14,916	112%
宮城	まなむすめ	15,434	15,611	99%	-	-
秋田	あきたこまち	16,911	16,808	101%	15,121	112%
秋田	ひとめぼれ	16,259	16,014	102%	-	-
秋田	めんこいな	15,763	-	-	-	-
山形	はえぬき	16,017	16,144	99%	14,426	111%
山形	コシヒカリ	17,233	-	-	-	-
山形	ひとめぼれ	16,284	-	-	-	-
福島	コシヒカリ(中通り)	16,034	15,976	100%	14,537	110%
福島	コシヒカリ(会津)	16,982	17,090	99%	15,891	107%
福島	ひとめぼれ	15,745	15,607	101%	13,820	114%
福島	あきたこまち	15,686	-	-	-	-
茨城	コシヒカリ	17,054	16,638	103%	15,940	107%
栃木	コシヒカリ	16,869	16,773	101%	15,660	108%
栃木	あさひの夢	15,471	15,292	101%	-	-
栃木	なすひかり	15,976	-	-	-	-
群馬	あさひの夢	15,805	-	-	-	-
埼玉	コシヒカリ	16,952	-	-	-	-
千葉	コシヒカリ	16,819	16,895	100%	15,944	105%
千葉	ふさこがね	16,151	16,294	99%	-	-

産地	品種銘柄	24年12月 ①	参考			
			24年11月 ②	対前月比 ①/②	23年12月 ③	対前年比 ①/③
長野	コシヒカリ	16,706	16,647	100%	15,873	105%
長野	あきたこまち	15,957	-	-	14,898	107%
新潟	コシヒカリ(一般)	18,506	18,523	100%	18,512	100%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	23,973	24,046	100%	23,532	102%
新潟	コシヒカリ(岩船)	18,923	-	-	-	-
新潟	コシヒカリ(佐渡)	18,871	-	-	-	-
新潟	こしいぶき	16,069	16,524	97%	-	-
富山	コシヒカリ	16,979	16,982	100%	16,147	105%
石川	コシヒカリ	16,958	16,867	101%	16,215	105%
石川	ゆめみづほ	15,948	-	-	-	-
福井	コシヒカリ	16,996	17,026	100%	16,067	106%
福井	ハナエチゼン	15,718	-	-	14,700	107%
岐阜	コシヒカリ	16,628	-	-	-	-
三重	コシヒカリ(一般)	16,906	16,862	100%	15,474	109%
三重	コシヒカリ(伊賀)	17,319	-	-	-	-
滋賀	コシヒカリ	17,157	17,142	100%	15,905	108%
滋賀	キヌヒカリ	15,939	15,912	100%	15,211	105%
滋賀	日本晴	15,820	-	-	-	-
兵庫	コシヒカリ	17,081	-	-	15,822	108%
島根	コシヒカリ	17,334	16,851	103%	15,795	110%
島根	きぬむすめ	16,219	-	-	-	-
岡山	アケボノ	16,092	16,022	100%	14,144	114%
岡山	コシヒカリ	18,010	-	-	-	-
広島	コシヒカリ	15,826	16,375	97%	15,024	105%
山口	コシヒカリ	16,976	-	-	-	-
山口	ヒノヒカリ	15,884	-	-	-	-
香川	ヒノヒカリ	15,936	-	-	14,581	109%
福岡	ヒノヒカリ	16,059	15,955	101%	14,526	111%
福岡	夢つくし	16,723	-	-	-	-
全銘柄平均価格		16,540	16,518	100.1%	15,233	109%

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注:1)相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。

その際、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2)また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。

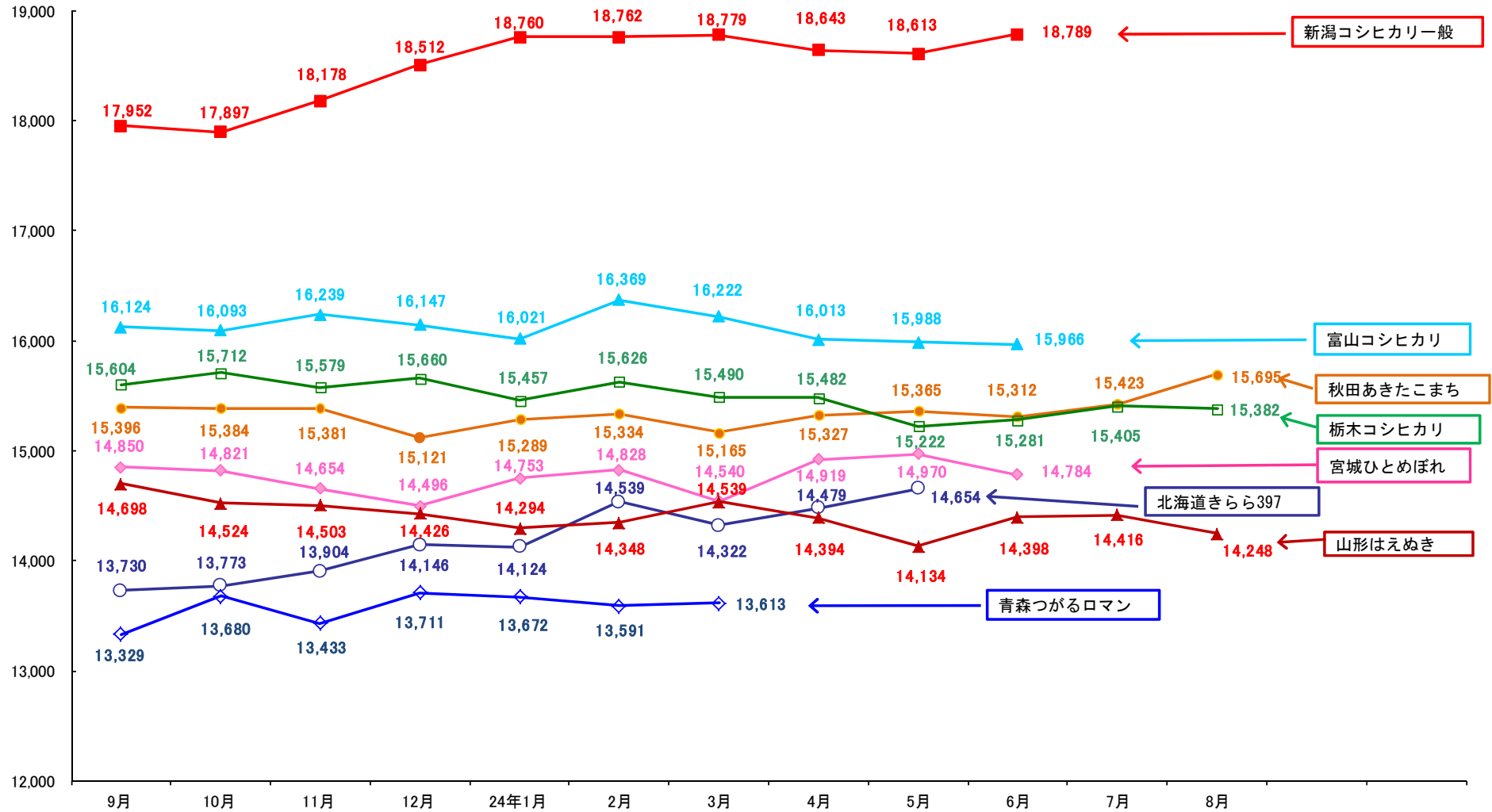
3)産地品種銘柄は、報告対象産地品種銘柄のうち、月1,000トン以上の取引があったものである。

4)全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5)23年12月は23年産の価格である。

11 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成23年産)

(円/60kg)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 (注意) 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

12 米の流通の状況(16～22年産米)

【生産段階】

(単位:万トン)

年産	生産量													
			出荷・販売		農家消費等		その他							
							加工用米等		もち米		減耗			
16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%
22	848	100.0%	592	69.8%	173	20.4%	73	8.6%	24	2.8%	32	3.8%	17	2.0%

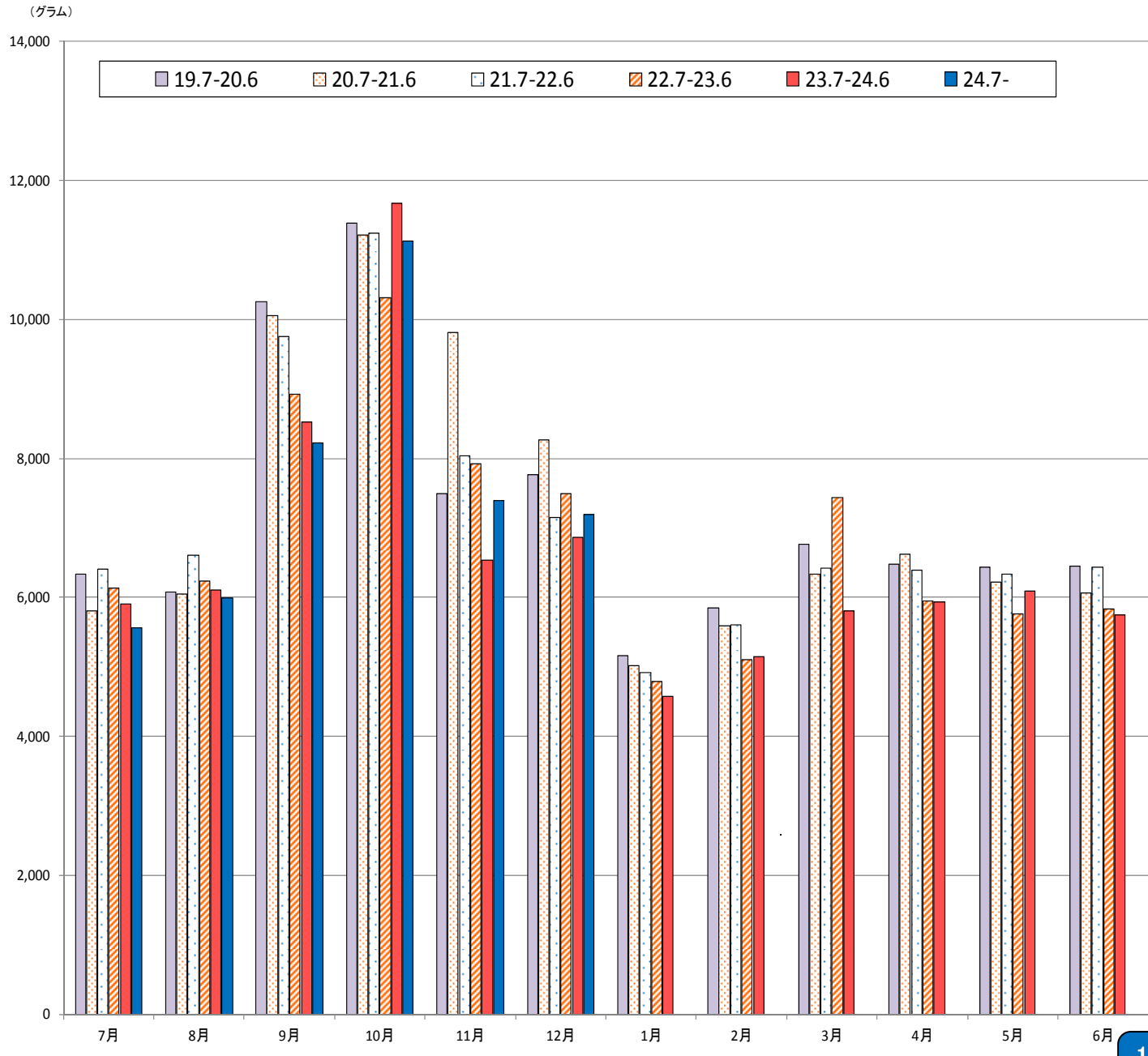
【出荷・販売段階】

年産	出荷・販売															
			農協						全集連系業者						生産者 直接販売等	
			販売委託		直販		販売委託		直販							
16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	226	25.9%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%
22	592	69.8%	369	43.5%	285	33.6%	84	9.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	202	23.8%

資料:資料:農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」(22年産は「生産者の米穀在庫等調査」)、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。
 注:1)平成21年産までの推計に用いた「生産者の米穀現在高等調査」と22年産の推計に用いた「生産者の米穀在庫高等調査」では調査対象農家の定義が異なる(前者は10a以上稲を作付(子実用)している農家、後者は販売目的の水稻の作付面積が10a以上の販売農家が対象)ことから、22年産では推計手法を変更している。
 2)生産段階には、生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米(17年産8万トン、20年産米10万トン)、②品質低下に伴う歩留り減(22年産米10万トン)がある。
 3)ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

13 家庭における米購入量等の推移①

(単位:グラム)				
	月間購入量	対前年同月比	年間累計	対前年比
H19.7	6,330	0.8%	86,450	2.5%
H19.8	6,080	0.3%		
H19.9	10,250	14.8%		
H19.10	11,390	▲6.0%		
H19.11	7,500	4.0%		
H19.12	7,770	▲0.4%		
H20.1	5,160	4.7%	87,050	0.7%
H20.2	5,840	2.1%		
H20.3	6,770	6.1%		
H20.4	6,480	1.9%		
H20.5	6,430	1.9%		
H20.6	6,450	3.2%		
H20.7	5,800	▲8.4%	85,300	▲2.0%
H20.8	6,050	▲0.5%		
H20.9	10,050	▲2.0%		
H20.10	11,210	▲1.6%		
H20.11	9,820	30.9%		
H20.12	8,270	6.4%		
H21.1	5,020	▲2.7%	81,930	▲4.0%
H21.2	5,590	▲4.3%		
H21.3	6,340	▲6.4%		
H21.4	6,620	2.2%		
H21.5	6,220	▲3.3%		
H21.6	6,060	▲6.0%		
H21.7	6,410	10.5%	78,930	▲3.7%
H21.8	6,610	9.3%		
H21.9	9,750	▲3.0%		
H21.10	11,240	0.3%		
H21.11	8,040	▲18.1%		
H21.12	7,150	▲13.5%		
H22.1	4,920	▲2.0%	45,490	▲0.3%
H22.2	5,600	0.2%		
H22.3	6,420	1.3%		
H22.4	6,400	▲3.3%		
H22.5	6,330	1.8%		
H22.6	6,430	6.1%		
H22.7	6,140	▲4.2%	86,450	2.5%
H22.8	6,240	▲5.6%		
H22.9	8,930	▲8.4%		
H22.10	10,310	▲8.3%		
H22.11	7,920	▲1.5%		
H22.12	7,500	4.9%		
H23.1	4,790	▲2.6%	87,050	0.7%
H23.2	5,110	▲8.8%		
H23.3	7,440	15.9%		
H23.4	5,950	▲7.0%		
H23.5	5,760	▲9.0%		
H23.6	5,840	▲9.2%		
H23.7	5,910	▲3.7%	85,300	▲2.0%
H23.8	6,110	▲2.1%		
H23.9	8,520	▲4.6%		
H23.10	11,670	13.2%		
H23.11	6,540	▲17.4%		
H23.12	6,870	▲8.4%		
H24.1	4,580	▲4.4%	81,930	▲4.0%
H24.2	5,150	0.8%		
H24.3	5,810	▲21.9%		
H24.4	5,930	▲0.3%		
H24.5	6,090	5.7%		
H24.6	5,750	▲1.5%		
H24.7	5,560	▲5.9%	78,930	▲3.7%
H24.8	5,990	▲2.0%		
H24.9	8,220	▲3.5%		
H24.10	11,130	▲4.6%		
H24.11	7,400	13.1%		
H24.12	7,190	4.7%		



資料: 総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

13 家庭における米購入量等の推移②(1世帯当たりの購入量の推移(米・パン・めん類))

(単位:g、%)

	米		パン		めん類	
		対前年比		対前年比		対前年比
平成21年	85,110	-	45,599	-	36,615	-
平成22年	83,010	▲2.5	45,443	▲0.3	37,000	1.1
平成23年	80,570	▲2.9	45,257	▲0.4	36,926	▲0.2
平成22年1月	4,920	▲2.0	3,673	4.3	2,966	3.9
2月	5,600	0.2	3,484	▲0.3	2,778	3.3
3月	6,420	1.3	4,119	2.2	3,135	0.4
4月	6,400	▲3.3	3,989	1.1	2,937	3.0
5月	6,330	1.8	3,954	▲3.4	3,000	▲5.8
6月	6,430	6.1	3,790	▲0.9	3,038	▲1.2
7月	6,140	▲4.2	3,850	0.1	3,503	1.3
8月	6,240	▲5.6	3,612	▲3.8	3,268	4.6
9月	8,930	▲8.4	3,663	▲5.6	2,534	0.2
10月	10,310	▲8.3	3,979	1.0	2,914	1.2
11月	7,920	▲1.5	3,700	▲1.0	3,020	0.9
12月	7,500	4.9	3,680	3.1	3,906	4.4
平成23年1月	4,790	▲2.6	3,656	▲0.5	2,875	▲3.1
2月	5,110	▲8.8	3,573	2.6	2,763	▲0.5
3月	7,440	15.9	4,076	▲1.0	3,424	9.2
4月	5,950	▲7.0	3,878	▲2.8	2,776	▲5.5
5月	5,760	▲9.0	4,015	1.5	2,958	▲1.4
6月	5,840	▲9.2	3,804	0.4	3,149	3.7
7月	5,910	▲3.7	3,640	▲5.5	3,911	11.6
8月	6,110	▲2.1	3,724	3.1	3,122	▲4.5
9月	8,520	▲4.6	3,653	▲0.3	2,583	1.9
10月	11,670	13.2	3,866	▲2.8	2,686	▲7.8
11月	6,540	▲17.4	3,700	0.0	2,893	▲4.2
12月	6,870	▲8.4	3,669	▲0.3	3,695	▲5.4
平成24年1月	4,580	▲4.4	3,505	▲4.1	2,821	▲1.9
2月	5,150	0.8	3,744	4.8	2,699	▲2.3
3月	5,810	▲21.9	4,035	▲1.0	2,889	▲15.6
4月	5,930	▲0.3	3,870	▲0.2	2,831	2.0
5月	6,090	5.7	3,917	▲2.4	2,986	0.9
6月	5,750	▲1.5	3,741	▲1.7	3,132	▲0.5
7月	5,560	▲5.9	3,704	1.8	3,557	▲9.1
8月	5,990	▲2.0	3,736	0.3	2,996	▲4.0
9月	8,220	▲3.5	3,566	▲2.4	2,477	▲4.1
10月	11,130	▲4.6	3,676	▲4.9	2,738	1.9
11月	7,400	13.1	3,640	▲1.6	2,955	2.1
12月	7,190	4.7	3,686	0.5	3,657	▲1.0

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

13 家庭における米購入量等の推移③（1世帯当たりの支出金額の推移(食料)）

(単位:円、%)

	食料																			
	食料		米		パン		めん類		スパゲッティ		カップめん		菓子類		調理食品		外食		ハンバーガー	
	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比
12年	887,453	—	38,920	—	27,209	—	17,060	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13年	861,235	▲3.0	37,045	▲4.8	26,062	▲4.2	16,649	▲2.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14年	854,518	▲0.8	35,292	▲4.7	26,455	+1.5	16,754	+0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15年	838,918	▲1.8	35,903	+1.7	26,871	+1.6	16,473	▲1.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年	835,676	▲0.4	35,801	▲0.3	27,307	+1.6	16,121	▲2.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17年	824,394	▲1.4	31,676	▲11.5	25,974	▲4.9	15,197	▲5.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18年	891,439	+8.1	30,968	▲2.2	26,560	+2.3	16,294	+7.2	1,021	—	2,952	—	75,463	—	101,905	—	159,676	—	3,506	—
19年	901,601	+1.1	30,680	▲0.9	27,097	+2.0	16,415	+0.7	1,082	+6.0	2,941	▲0.4	76,160	+0.9	100,910	▲1.0	164,860	+3.2	3,785	+8.0
20年	905,556	+0.4	31,229	+1.8	28,127	+3.8	17,986	+9.6	1,357	+25.4	3,015	+2.5	78,970	+3.7	98,567	▲2.3	164,894	+0.0	4,046	+6.9
21年	896,129	▲1.0	30,496	▲2.3	28,966	+3.0	18,423	+2.4	1,400	+3.2	3,293	+9.2	80,403	+1.8	98,469	▲0.1	161,314	▲2.2	4,352	+7.6
22年	884,768	▲1.3	28,610	▲6.2	28,177	▲2.7	18,047	▲2.0	1,280	▲8.6	3,351	+1.8	78,861	▲1.9	99,866	+1.4	160,230	▲0.7	4,476	+2.8
23年	872,850	▲1.3	27,425	▲4.1	28,321	+0.5	18,236	+1.0	1,285	+0.4	3,468	+3.5	76,801	▲2.6	101,930	+2.1	154,549	▲3.5	4,501	+0.6
23年1月	68,124	▲2.5	1,585	▲12.7	2,192	▲2.8	1,342	▲2.0	91	▲11.7	300	+4.5	6,078	▲5.0	7,892	+1.4	14,073	▲4.4	439	+3.8
2月	65,146	+0.0	1,788	▲9.7	2,193	▲1.7	1,258	▲1.8	105	▲0.9	280	▲3.1	6,252	▲2.1	7,648	+4.5	11,558	+0.4	347	+2.4
3月	70,489	▲2.9	2,535	+12.8	2,558	+1.6	1,665	+15.1	142	+14.5	443	+40.2	6,634	▲7.7	8,176	+3.2	11,221	▲16.4	341	▲18.4
4月	68,368	▲1.4	2,018	▲10.7	2,501	+1.3	1,345	▲1.4	111	▲4.3	253	▲6.6	6,220	+0.3	7,970	+4.3	11,806	▲4.9	332	▲5.4
5月	72,572	▲3.2	1,943	▲14.9	2,518	+0.4	1,510	+0.4	111	▲0.9	263	+0.4	6,570	▲2.3	8,027	+1.4	13,703	▲7.3	368	+4.0
6月	69,241	▲1.3	1,955	▲14.4	2,319	▲3.5	1,631	+1.2	102	+4.1	240	+7.6	5,663	▲4.3	7,670	+1.0	11,615	▲1.0	306	+7.7
7月	75,050	+0.6	2,053	▲6.0	2,313	▲2.2	2,058	+8.6	102	+5.2	226	+1.8	6,333	▲1.2	9,071	+2.7	13,359	+0.9	391	▲1.5
8月	77,241	▲1.8	2,129	+0.7	2,309	+2.6	1,646	▲2.0	98	▲3.0	258	+4.5	7,250	▲3.9	8,887	+1.0	14,968	▲3.6	435	▲12.7
9月	69,496	▲1.5	2,754	▲5.9	2,268	+1.4	1,282	+0.2	103	▲1.0	273	+5.8	5,782	▲0.4	7,987	+0.2	12,021	▲2.3	352	+4.5
10月	73,052	▲0.6	3,805	+15.1	2,428	+2.0	1,307	▲5.6	108	▲2.7	290	▲4.0	5,835	▲2.3	8,371	▲1.3	12,891	▲0.2	407	+18.7
11月	70,532	▲1.1	2,257	▲16.2	2,333	+2.9	1,367	▲0.1	106	+6.0	276	▲8.6	5,821	▲1.3	8,260	+1.5	12,731	▲0.6	355	+6.0
12月	93,539	▲0.6	2,603	+3.3	2,390	+4.2	1,825	▲2.0	106	▲1.9	367	▲1.1	8,363	▲0.6	11,971	+4.5	14,603	▲1.5	428	+8.1
24年1月	69,105	+1.4	1,707	+7.7	2,307	+5.2	1,313	▲2.2	99	+8.8	290	▲3.3	6,183	+1.7	8,106	+2.7	14,227	+1.1	433	▲1.4
2月	67,024	+2.9	1,873	+4.8	2,342	+6.8	1,273	+1.2	102	▲2.9	292	+4.3	6,426	+2.8	8,069	+5.5	11,342	▲1.9	329	▲5.2
3月	73,367	+4.1	2,120	▲16.4	2,577	+0.7	1,385	▲16.8	119	▲16.2	329	▲25.7	7,133	+7.5	8,422	+3.0	13,709	+22.2	382	+12.0
4月	70,347	+2.9	2,180	+8.0	2,473	▲1.1	1,352	+0.5	118	+6.3	274	+8.3	6,198	▲0.4	8,308	+4.2	12,503	+5.9	360	+8.4
5月	78,876	+8.7	2,225	+14.5	2,464	▲2.1	1,439	▲4.7	117	+5.4	247	▲6.1	6,601	+0.5	8,232	+2.6	13,556	▲1.1	311	▲15.5
6月	69,871	+0.9	2,177	+11.4	2,382	+2.7	1,554	▲4.7	105	+2.9	239	▲0.4	5,953	+5.1	7,852	+2.4	12,041	+3.7	298	▲2.6
7月	73,734	▲1.8	2,115	+3.0	2,348	+1.5	1,871	▲9.1	99	▲2.9	224	▲0.9	6,304	▲0.5	9,104	+0.4	13,143	▲1.6	381	▲2.6
8月	77,611	+0.5	2,276	+6.9	2,297	▲0.5	1,623	▲1.4	99	+1.0	233	▲9.7	7,415	+2.3	9,071	+2.1	15,291	+2.2	417	▲4.1
9月	69,859	+0.5	2,950	+7.1	2,248	▲0.9	1,231	▲4.0	99	▲3.9	256	▲6.2	5,735	▲0.8	8,150	+2.0	12,477	+3.8	351	▲0.3
10月	71,635	▲1.9	3,859	+1.4	2,313	▲4.7	1,280	▲2.1	102	▲5.6	288	▲0.7	5,701	▲2.3	8,605	+2.8	12,307	▲4.5	332	▲18.4
11月	69,959	▲0.8	2,527	+12.0	2,229	▲4.5	1,368	+0.1	94	▲11.3	291	+5.4	5,718	▲1.8	8,385	+1.5	12,710	▲0.2	346	▲2.5
12月	94,014	+0.5	2,721	+4.5	2,301	▲3.7	1,874	+2.7	101	▲4.7	395	+7.6	8,411	+0.6	12,311	+2.8	14,362	▲1.7	375	▲12.4

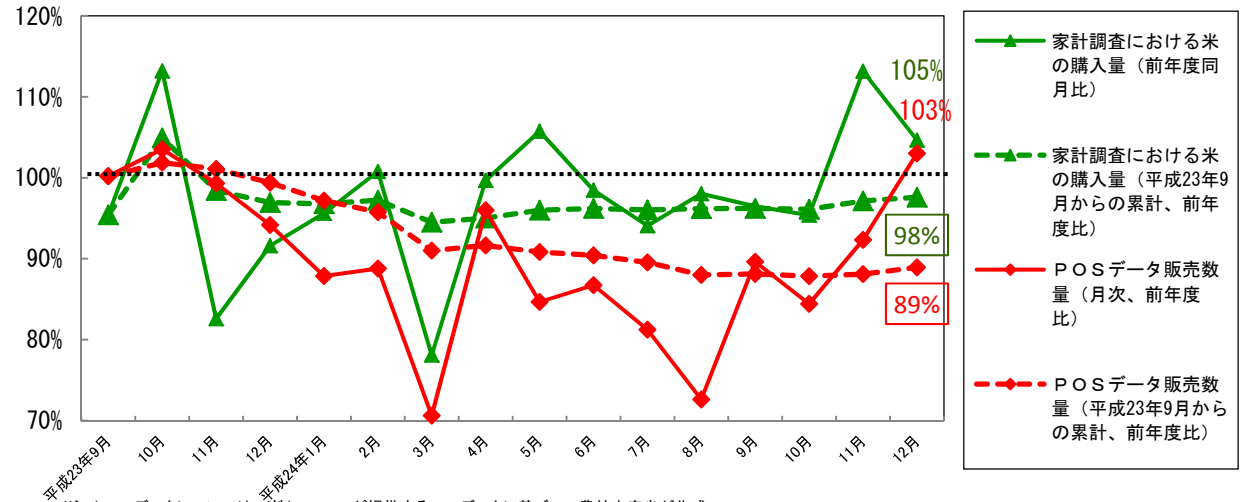
資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

14 23年産及び24年産米の流通状況について

- 平成24年産米について農林水産省に報告のあった相対取引数量を見ると、10月までは前年度を上回るペースで調達がなされていたが、対前年比で11月の取引数量が減少し、総量で見ると対前年を若干下回っている。
- また、POSデータによると、数量ベース(対前年度比)で見ると食品スーパー等における米の販売数量が家計調査における米の購入数量より減少している傾向が示唆される。
- 一方で、米穀機構が実施している米の消費動向調査では、インターネットを通じて米を購入する消費者の割合が増加している。

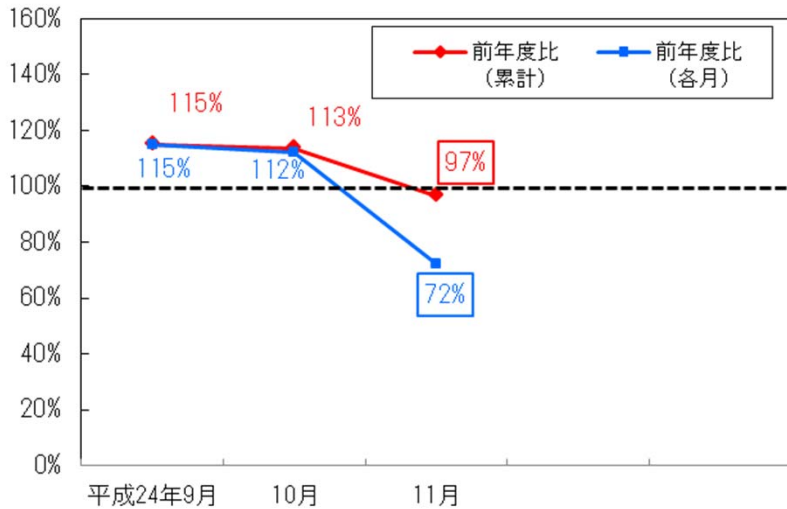
○ 小売段階における米の販売数量及び家計調査における米の購入量の前年度比較

※囲みなしの数値は各月の前年同月比、囲み付きの数値は平成23年9月からの累計の前年比を示している。



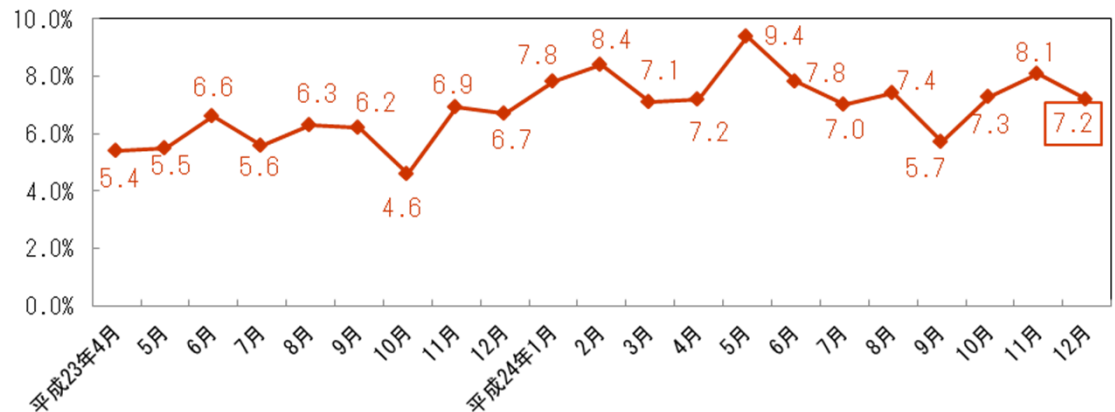
(注1) POSデータについては、(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成。
(店舗数は比較期間中同一となるよう調整を行っている。)
(注2) 平成23年3月に東日本大震災が発生していることに留意。

○ 24年産米の相対取引数量の比較



○ インターネットで米を購入する人の割合

(米穀機構調査より)



(参考1) 東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄の検討

○「食糧部会における米の備蓄運営についての議論の整理(平成23年8月)」(抜粋)

3 備蓄米放出の基本的なプロセス

(中略)

災害時における備蓄米放出(販売)については、東日本大震災における首都圏の一時的な供給不足等を踏まえ、別途検討。なお、災害時の放出については食糧法令において直接的な言及はないものの、販売業者だけではなく地方公共団体への販売など、従来から災害時の放出を想定した規定が置かれており、これに基づき実施。

精米備蓄実証事業 (25年度概算決定額:30(25)百万円(特会))

《背景》

- ・東日本大震災発生後に、被災地から応急食料としての精米の供給要請
- ・大消費地である首都圏において一時的に米の品薄状態が発生

《課題》

- ・大規模災害への備えとして、一定量の精米のストックが必要
- ・大規模災害発生直後に大都市圏で発生が想定される需要増加・精米供給能力の低下に対応する体制の確保が必要

《実証事業の概要》

- 平成24年度より、政府が買い入れる備蓄米の一部を活用して試験的に精米形態での備蓄を実施
 - ・備蓄量：500トン（東日本大震災発生～4月20日までの被災地向精米供給量に相当）
 - ・実施主体：政府所有米穀の販売等業務の委託を受けた民間団体等
- 併せて食味等分析試験及び販売実証(非主食として販売)を行うことにより、今後のより効率的な精米備蓄の可能性を検証

- 加工用米は、従来から民間同士の契約に基づき取り組まれており、今後とも酒造用等の高価格帯、米菓用・焼酎用等の低価格帯ともに、民間取引の下で安定的に供給されていくことが基本。
- しかしながら、平成23年7月の米トレサ法の施行により国内産米のニーズが高まっている一方で、平成23年産主食用米の価格上昇に伴い、平成24年産加工用米についても需要者への販売提示価格が上昇しており、安価な原材料用米穀を取り扱う米菓・味噌・焼酎用等の低価格帯需要への供給不足が見込まれたところ。
- このため、今般、やむを得ず平成24年産加工用米の供給不足分に対して、24年産備蓄米の買入契約数量8万トンの範囲内で年産更新する予定の18年産備蓄米約4万トンを販売。(11月中旬から順次引渡しを開始)

【加工用米の取組状況】

- ・ 加工用米の取組数量は、22年産は過剰気味だったことから、集荷団体等が23年産生産量を約6万トン程度減少させたところ。
しかしながら、23年産においては需要に対して不足が生じたところ。
このため、24年産においては、集荷団体等が生産量の増加に努め、23年産よりも3万トン程度増加。

加工用米 取組数量	22年産	23年産	24年産
	21万トン	15万トン	18万トン

- ・ 取引価格(うるち米)については、23年産は概ね8,750円/60kg程度だったが、24年産においては、11,000円/60kg程度に上昇。

【24/25年の備蓄運営(24年7月基本指針)】

- ・ 平成24年産米の備蓄米買入契約数量は8万トン。
- ・ 平成24年6月末の備蓄量は、適正備蓄水準(100万トン)程度の95万トン。
- ・ これを踏まえ、24年産米の買入契約数量8万トンの範囲内で飼料用・援助用等に販売。

※ 現在の備蓄運営においては、年産更新の際の備蓄米の販売先として、飼料用・援助用のほか、加工用低価格帯需要の不足分に対しても販売していく考え。

(単位: 万トン)

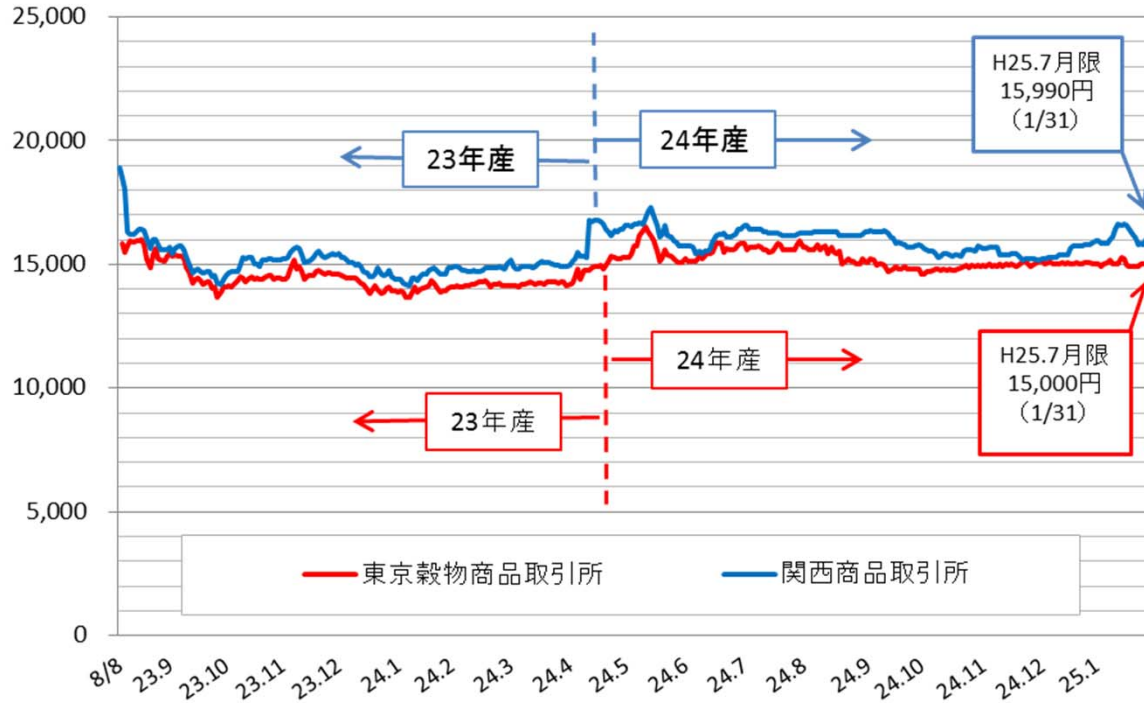
平成24年6月末備蓄量	A	95
平成24年産買入契約数量	B	8
平成24/25年備蓄米代替供給量	C	4
平成24/25年飼料用・援助用等販売量	D	8
平成25年6月末備蓄量	E=A+B-C-D	91

翌年産以降、加工用米については、高価格帯、低価格帯それぞれの用途ごとに、需要に見合った生産が行われ、安定的に需要者に供給されるよう、取組体制の確立が重要。

(参考3) 米の先物取引の試験上場の動向①

○価格の推移(期先限月の終値)

(単位: 円/玄米60Kg)



注1: 東穀は関東(茨城、栃木、千葉)コシヒカリ、関西取は北陸(石川、福井)コシヒカリの価格。いずれも1等、消費税抜き、運賃及び包装代を含む。東穀は東京、関西は大阪受渡の価格。

注2: 期先限月とは、現物受渡や売買取引の期限が、その時点から最も先となる月。

(参考)各月末時点での期先限月の終値

(単位: 円/玄米60Kg)

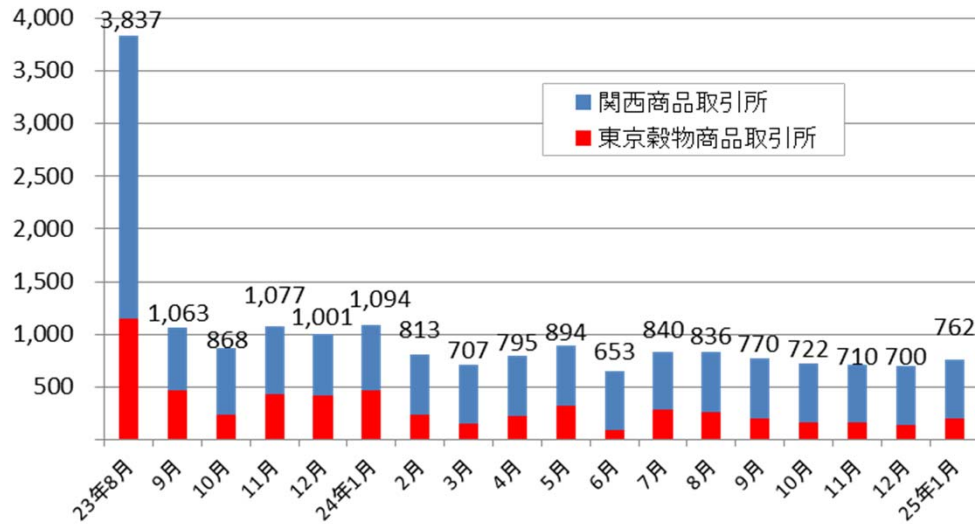
		東穀	関西取
23年産	平成23年8月	15,340	15,580
	9月	14,100	14,380
	10月	14,450	15,170
	11月	14,610	15,380
	12月	13,930	14,410
	平成24年1月	14,040	14,850
	2月	14,150	15,000
24年産	3月	14,150	14,910
	4月	15,260	16,410
	5月	15,060	15,730
	6月	15,850	16,420
	7月	15,960	16,270
	8月	15,100	16,290
	9月	14,800	15,770
	10月	14,900	15,700
	11月	15,120	15,180
	12月	15,000	15,900
平成25年1月	15,000	15,990	

注: 平成25年1月31日現在。

(参考3) 米の先物取引の試験上場の動向②

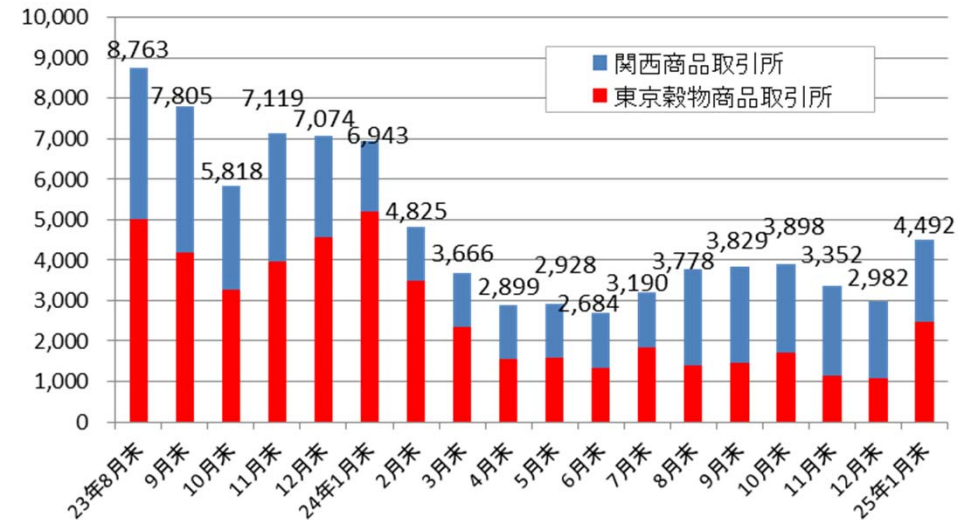
○1日平均出来高の推移

(単位: 枚)



○取組高の推移

(単位: 枚)



(参考)米と他の商品(東穀)の1日平均出来高

(単位: 枚)

	米(東穀)	米(関西取)	とうもろこし	大豆	小豆	粗糖
23年8月	1,150	2,687	3,061	3,231	393	234
9月	468	595	3,026	3,493	365	166
10月	236	632	2,602	3,193	309	150
11月	437	640	2,303	2,722	467	244
12月	420	581	1,978	2,080	337	140
24年1月	471	623	1,824	1,748	443	188
2月	240	573	2,599	2,107	547	65
3月	150	557	1,921	1,992	585	150
4月	229	566	1,816	2,076	599	51
5月	329	565	1,545	1,686	592	74
6月	96	557	2,970	3,247	488	53
7月	284	556	7,626	7,611	240	86
8月	260	576	6,122	3,277	141	36
9月	206	564	4,119	2,514	198	63
10月	167	555	3,485	1,630	134	73
11月	161	549	1,940	1,233	169	145
12月	142	558	1,937	1,406	131	284
25年1月	205	557	2,196	1,259	123	202

(参考)米と他の商品(東穀)の月末取組高

(単位: 枚)

	米(東穀)	米(関西)	とうもろこし	大豆	小豆	粗糖
平成23年8月末	5,025	3,738	30,991	31,975	3,785	7,503
9月末	4,185	3,620	25,853	26,034	3,641	6,392
10月末	3,278	2,540	25,033	24,752	3,097	5,840
11月末	3,977	3,142	25,486	26,983	2,799	4,839
12月末	4,556	2,518	24,695	25,580	2,719	4,822
平成24年1月末	5,195	1,748	25,041	21,279	3,408	2,123
2月末	3,479	1,346	24,535	18,851	3,634	1,877
3月末	2,352	1,314	23,320	18,783	3,278	3,090
4月末	1,561	1,338	24,209	19,592	4,303	3,009
5月末	1,575	1,353	24,431	18,243	5,167	2,978
6月末	1,326	1,358	20,206	22,226	4,148	3,046
7月末	1,843	1,347	26,438	35,337	3,229	2,442
8月末	1,400	2,378	28,723	33,246	2,346	2,462
9月末	1,461	2,368	28,159	24,855	1,376	2,287
10月末	1,703	2,195	27,373	25,123	1,521	2,721
11月末	1,137	2,215	24,755	23,602	1,052	2,351
12月末	1,067	1,915	22,290	19,495	1,304	3,942
平成25年1月末	2,473	2,019	21,928	16,178	1,493	393

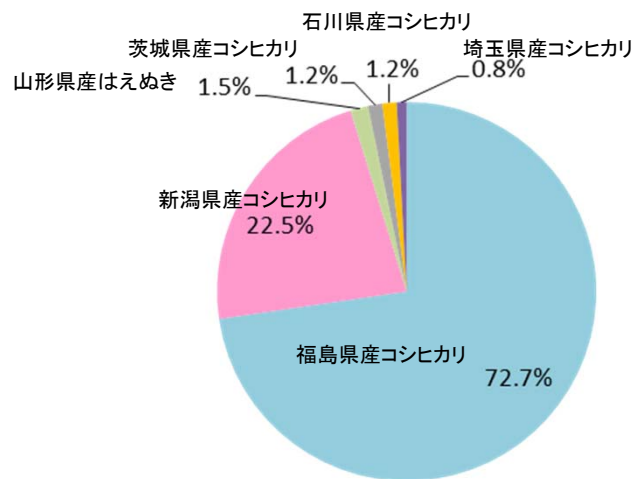
注1: 出来高とは、市場において成立した売買契約の数。

注2: 取組高とは、市場において成立した売買契約(将来売買する約束)のうち、まだ現物受渡や売り(買い)戻しが行われず、市場に残っている売買契約の数(売りと買いセットで1枚とカウント)。

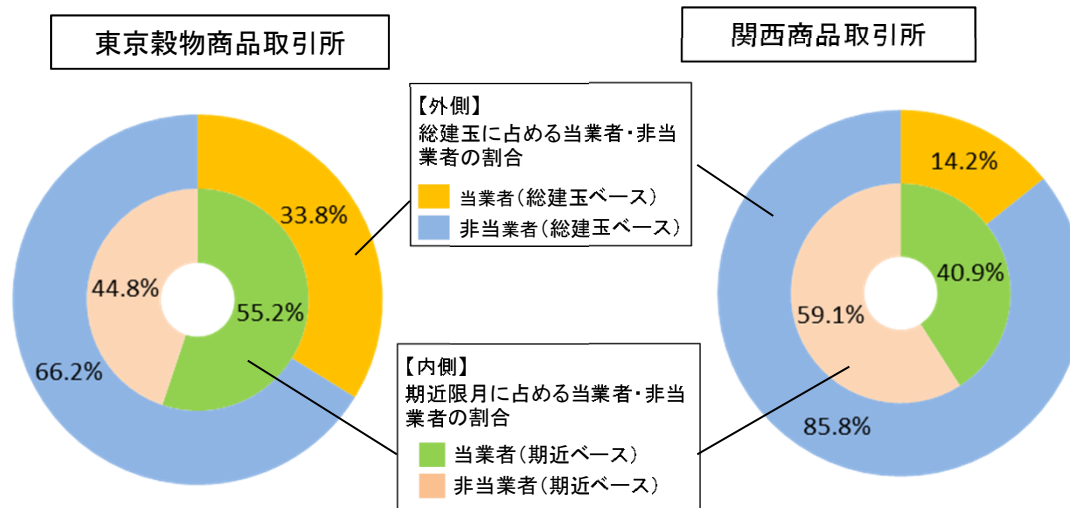
注3: 米については、東穀は1枚6トン、関西取は1枚3トン。他の商品については1枚はとうもろこしは50トン、大豆は10トン、小豆は2.4トン、粗糖は10トン。ただし、粗糖は2013年11月限以降は50トン。

(参考3) 米の先物取引の試験上場の動向③

○現物受渡量



○取引参加者の割合(各月末平均値)



銘柄	取引枚数(玄米重量)		
	東穀	関西取	合計
コシヒカリ(福島県産)	334枚 (2,004トン)	287枚 (861トン)	621枚 (2,865トン)
コシヒカリ(新潟県産)	114枚 (684トン)	68枚 (204トン)	182枚 (888トン)
はえぬき(山形県産)	10枚 (60トン)	-	10枚 (60トン)
コシヒカリ(茨城県産)	8枚 (48トン)	-	8枚 (48トン)
コシヒカリ(石川県産)	-	16枚 (48トン)	16枚 (48トン)
コシヒカリ(埼玉県産)	-	11枚 (33トン)	11枚 (33トン)
平成23年8月8日以降の累積値	466枚 (2,796トン)	382枚 (1,146トン)	848枚 (3,942トン)

注:平成25年1月限までの累積値。

		東京穀物商品取引所		関西商品取引所	
		当業者	非当業者	当業者	非当業者
各月末平均値	総建玉に占める割合	33.8%	66.2%	14.2%	85.8%
	期近限月に占める割合	55.2%	44.8%	40.9%	59.1%
平成24年11月末	総建玉に占める割合	77.0%	23.0%	9.2%	90.8%
	期近限月に占める割合	95.4%	4.6%	12.5%	87.5%
12月末	総建玉に占める割合	73.6%	26.4%	13.3%	86.7%
	期近限月に占める割合	96.8%	3.2%	28.6%	71.4%
平成25年1月末	総建玉に占める割合	41.9%	58.1%	14.8%	85.2%
	期近限月に占める割合	90.3%	9.7%	80.6%	19.4%

- 注1:東京穀物商品取引所及び関西商品取引所において把握している当業者・非当業者の割合。
- 注2:総建玉とは、市場において成立した売買契約のうち、まだ現物受渡や売り(買い)戻しが行われず、市場に残っている売買契約の総数(売りと買いそれぞれ1枚とカウント)。また期近限月とは、現物受渡や売買取引の期限がその時点から最も近い月。
- 注3:当業者とは、米の売買、売買の媒介、取次ぎ若しくは代理、生産、加工又は使用を業として行っている者(生産者、卸・小売業者、米加工品製造業者、外食事業者等)。
- 注4:総建玉に占める当業者・非当業者の割合は、平成23年8月以降の各月末平均値。期近限月に占める当業者・非当業者の割合は、平成23年12月以降の各月末平均値。